

小学校長会会長賞

堺市立 福泉東小学校 六年

みんなの気持ち

北 口 侑 斗

ぼくが考える「明るい社会」とは、人と人同士の気持ちが分かり合える平和な世界のことです。

なぜそう考えたのかというと、現在の状況がきっかけです。今は、コロナウイルスによる自粛生活が原因で、一人で落ち着いていけないのか、ストレスがたまっているのか、今まで以上の犯罪が起きている気がします。例えば、ニュースでは、子どもへの八つ当たり（虐待）や、逆に子どもが親に暴力をふるうなどの子どもに関わる事件を多く聞くようになりました。そのようなニュースに出てくるような人たち同士は、気持ちが分かり合えなかったのかなと悲しい気持ちになります。

ふだんのぼくの身の回りの生活では、前は不しん者がまったく出なかったのに、最近ではときどき学校で知られることがあります。その知らせを聞くと、ひがいにあった人はだいたいじょうぶかなど不安になります。ほかの人は、ひがいにあわなないかなど思っていると思います。

お互い気持ちを思いやれることは、どういうことでしょうか。

考えてみました。ぼくが低学年のころを思い出してみると、けんかがよく起きていました。傷をつけてしまった人は謝ることになることが多いかもしれませんが、された方も「何か人を傷つけるようなことをしてしまったのかもしれない」と、思いなおす心構えも重要だと思います。自分の言葉や行動がけんかにつながってしまうかもしれない。そう注意して、人の気持ちを考えて話したり行動したりすることが必要です。

では、ふだんの生活で自分達ができることは、なんでしょうか。ぼくは、「友達を大切にすること」や「一人ひとりに関心をもつこと」が大切になってくると思います。それを考えたとき、「人間はみんな、一人ひとりすごく頑張って生まれてきたから、生きていくだけで百点なんだ」と、学校で毎年ある「いのちの授業」で教えてもらったことを思い出しました。犯罪や非行をしてしまった人にもきつと大切な人がいて、その人も生きていくだけで百点な存在なのだということです。

ただ、やってしまったことは元にはもどらないということも心

に入れておくことも大切です。自分がやってしまった犯罪や非行は、自分の家族を悲しませることもつながるし親や子どもにも暴力をふるうことは、もう後もどりできないことになってしまいうこともあるからです。そうなったときになって初めて後かいして、一生後かいすると思います。そう後かいしないためにも、自分の言葉や行動に注意したり、気をつけたりのふだんの心構えが重要です。

みんな心は、一人ひとりちがいます。イライラ、幸せ、うらみ、迷い、恋、ドキドキ、悲しい、さみしい、うれしい、不快など、様々な心をもっています。たくさんこの気持ちをみんなの心の中にためていて、でもこれはほかの人からは見えません。だからこそ、不安な気持ちやイライラがたえきれない時は、友達や大人（先生、家族、知り合いなど）に相談することが大切です。そんな人が周りにいることも知っておきたいし、自分もそんな存在でありたいと思います。

また、自分は言われて不快にならなくても相手が不快になるかもしれない言葉があるかもしれません。もしも相手が自分の一言で不快になってしまったり、泣いてしまったりしたら、まずは、心から謝ることが一番大切です。だからこそ、自分の言葉が相手がどう感じているのか、自分の行動が周りからどう見えているのか、しっかりと考えられる大人になりたいと思います。

ぼくもみんなも、大切に思われて生まれてきた大切な命です。人を大切にするということは、人の命を大切にするということです。

